

ピンクリボンNEWS

2024年度
夏号
Vol.13 No.2

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

発行所 J.POSH事務局 〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

J.POSH
日本乳がんピンクリボン運動®

TOPICS

「奨学金まなび」 受給生からの お礼の手紙に感動



認定NPO法人J.POSH
(日本乳がんピンクリボン運動)
副理事長 平田 享

認定NPO法人J.POSHの事務局あてに、高校生活で「J.POSH奨学金まなび」を受給し、この春めでたく卒業、そして某国立大学への進学を決めた北陸地方在住のSさんから、心のこもったお礼状を頂きました。乳がんの母親に心配をかけまいと気遣い、自身がストレスを感じてしまったこと、校内掲示で『まなび』を知り応募したこと、応援して下さいの皆様(J.POSHおよびご寄付して下さいの方々)の存在が大きき心の支えとなったこと、そして、がんによって苦しむ人々を様々な形で応援していくことが私の目標となりました—と結んでおられます。ピンクリボン運動を展開する私たちJ.POSH一同が「私たちの運動は間違っていない」と改めて思いを新たにしてお手紙でした。

認定NPO法人J.POSHのプログラムの1つである『奨学金まなび』。応募資格は①本人の母親、保護者を乳がんで亡くしている、または本人の母親、保護者が現在乳がんで治療中

②経済的な理由により修学またはその継続が困難な生徒③給付開始時に高等学校(学校教育法に規定する全日制及び定時制、通信制の高等学校)、特別支援学校の高等部、専修学校の高等課程に在学中(当年入学者含む)です。

私たちJ.POSHがこの奨学金を創設するきっかけとなったのは2007年夏、当時実行されていた「キッズファミリープログラム」(現在は休止)に参加された乳がん患者の娘さんをもつ高齢の男性との出会いでした。乳がん患者のファミリーが集い、お互いの悩みなどを語り合うとい



う趣旨のプログラムでしたが、それから半年後、事務局に「娘が亡くなりました」というお手紙が届きました。その手紙には亡くなった娘さんが最後の力を振り絞って書き残したという手紙が添えられていました。「年老いた両親に、自分の子供たちを託さねばならない無念さ」がにじみ出る文面でした。子供たちに宛てた最後の一行は、『高校・・・、しゅうしょく…』で終わっていました。子供たちには「せめて高校は卒業してほしい」との思いが伝わってきました。

この思いを形にしたのが『J.POSH奨学金まなび』です。「乳がんで亡くなられた、または

闘病中の保護者をもつ高校生に最長卒業までの3年間、月1万円を支給、返済不要」の「奨学金まなび」は2008年に設立し基金をスタート。初年度(2010年)の支給人数は25人でしたが、2023年度は85人(コロナ禍特別増員10名を含む)にまで拡大し、みなさまへの支援の輪が広がり続けていることを嬉しく感じております。

しかし、こんな実情があることも知って頂きたいと思います。それは、「まなび」を開始した当初は応募者も比較的少なく、奨学金の基金自体も余裕がありました。ですが10数年の歴

史を重ねる中で知名度も上がり、応募者の数も飛躍的に増加。基金自体の予算の制約もあり、応募者の皆様全員に支給することができないことに対する「無念さ」を感じているところです。応募者の皆様に提出をお願いしている「成績証明書」や「保護者の収入証明書」…などの書類を見つめながら線引きしなければならないことの苦しさを痛感しています。

改めて「奨学金まなび」について思い起こさせてくれたSさんからのお手紙を紹介させていただきます(ご本人の了解を頂いています)。

私が高校一年生の時、母が乳がんであると診断されました。風邪ひとつ引かない母は、家族の中で一番体が丈夫だと思っていました。診断結果が伝えられる日、結果を聞いてしまふと疑いが事実になるのがとても怖く、受け入れられず、いつもより遅く家に帰りました。帰りが遅い私を、自分のことは二の次で心から心配する母を見て、自分勝手な行動をとったことを深く反省しました。しかしその後も、不安や恐れから強いストレスを感じる日々が続きました。デリケートな問題のため親友にも相談できず、不安にさせたくなくて親にも素直に話せませんでした。

高校三年生になった頃、校内掲示で奨学金まなび基金について知り、医療費や進学費用による両親の負担を減らせたらと考え、応募しました。この基金について調べ、たくさんの方の寄付によって奨学金を受け取れていることを知りました。闘病は辛く苦しいものだと思います。しかしまた、私のように悩みを打ち明けられずに苦しむ家族も多くいると思います。そんな人達のことを理解し、応援して下さる存在があることは、この1年間本当に大きな心の支えとなりました。

以前よりも落ち着いた気持ちで勉強に集中できたことと、治療によって少し病状が良くなった母の支えのおかげで、この春から志望校への進学が決まりました。これからは、頼もしい娘となって闘病中の母を支え、私を支援して下さった方々のように、がんによって苦しむ人を様々な形で応援することが私の目標です。

「奨学金まなびへ」の募金および寄付金などのご支援の方法

A. クレジットカードでのご寄付

右のQRコードより送信フォームからメールアドレスを入力してください。確認メールが送られてきますので、URLをクリックして、情報入力と寄付の処理を続けてください。



B. 銀行振込または郵便振替での寄付

①下記についてご連絡(メール・FAX)ください。

- ・お名前、TEL、〒、住所、寄付金額(約¥～)、領収書の発行名
- ・感謝状の有無(有→発行名) ※3千円以上のご寄付の場合のみとなります。
- ・HP掲載の有無(有→掲載名) ※2千円以上のご寄付の場合のみとなります。

②右記の銀行口座または郵便口座へご送金をお願いいたします。

銀行振込口座
銀行名：三菱UFJ銀行 大阪営業部
口座番号：普通 3839367
口座名：J.POSH奨学金まなび
特定非営利活動法人J.POSH 理事 田中完児

郵便振替口座
口座番号：00980-8-145817
口座名：J.POSH奨学金まなび

オフィシャルサポーターのご紹介

株式会社ヤクルト本社

■会社概要

株式会社ヤクルト本社(東京都港区、成田裕社長、東証プライム上場)は、乳酸菌飲料の「ヤクルト」を始め「ミルミル」「ジョア」「タフマン」など健康飲料の製造・販売を行っています。医薬品や化粧品、研究・開発事業に加え、世界40の国と地域で販売を行う国際事業など幅広い事業を展開しています。プロ野球の(株)ヤクルト球団は関係会社。

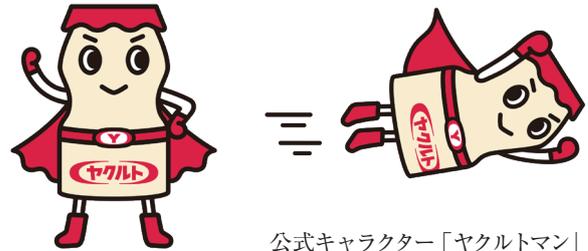
「生命科学の追究を基盤として世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献する」ことを企業理念とし、「プロバイオティクスに代表される予防医学を提唱」して事業活動を進めています。ヤクルトの創始者である代田稔(シロタミル)医学博士(1899年～1982年)は京都帝国大学(現京都大)在学中、乳酸菌が腸の中の悪い菌を抑えることに注目。1930年に乳酸菌の強化培養に成功し、それが現在の「乳酸菌 シロタ株」になります。そして1935年に乳酸菌飲料「ヤクルト」が誕生しました。同社の原点である「代田イズム」は『予防医学』『健腸長寿』『誰もが手に入れられる価格で』を基本として経営を展開しています。

■J.POSHのオフィシャルサポーターになった背景

こうした企業理念を背景に、とりわけ人々の健康、予防医学などに関わるCSR、社会貢献活動に力を入れる一方、「社員の健康」も大切に考えています。そして働く女性が増えていることから、女性の罹患が多い乳がんや子宮頸がんに注目し、検診推奨・啓発を目的に、2008年10月からJ.POSHのオフィシャルサポーターに登録されました。

■健康経営の取り組み

「従業員が健康でいきいきと働ける環境づくり」を目指し、社長を「最高健康責任者」としています。また、実務推進担当部署として人事部内に健康経営推進課を設置し、各事業所の健



公式キャラクター「ヤクルトマン」

康推進担当者およびヤクルト健康保険組合と連携しながら女性のためのがん検診などの健康施策を推進しています。同社の女性従業員は2024年4月1日現在803人。乳がん・子宮頸がんは就労世代に罹患するリスクが高いことから早期発見・早期治療が重要と考え、会社として積極的に取り組んでいます。

■受診しやすい環境を整備し、健康でいきいきと働ける職場の実現

女性のためのがん検診の取り組みとしては「受診しやすい環境を整備し、女性従業員が健康でいきいきと働ける職場づくり」を目指し、推進しています。

具体的には、①竹芝本店などの事業所における職場での巡回検診の実施②全国の事業所近郊の医療機関(10か所)と提携③受診費用の助成(巡回検診、提携医療機関での受診の際に「ヤクルト価格」で受診可能)④社用外出を利用し就業時間内での受診が可能などの取り組みを行っています。このような取り組みの結果、同社の乳がん検診受診率は2019年65.7%だったものが2023年2月末には85.1%と着実に高まっています。同様に子宮頸がん検診受診率も55.0%が73.0%と高まっています。

女性従業員からは、「20代でがんとは無縁だと思っていましたが、受診により子宮頸がんの早期発見につながりました。会社の制度がなかったら受診していなかったと思います。」「会社の費用助成に加え、提携医療機関があり受診しやすく助かっています。」などの嬉しい声が聞かれました。

このように、人々の健康のために商品を作り出すとともに、「従業員の健康」にもしっかり目を向けています。

『皆さん、ピンクリボン付けてウイメンズマラソン走りませんか!』

検診呼びかける岡南先生から J.POSHに『声』届く

毎年2万人以上もの女性ランナーが早春の名古屋の街を走り抜ける「名古屋ウイメンズマラソン」(日本陸上競技連盟、中日新聞社主催)。参加者数は「ギネス記録」に認定され、世界1の大会として知られていますが、参加者のみなさんの寄付金で中日新聞社を通じてチャリティ活動の支援に充てられるチャリティマラソンとしても知られ、認定NPO法人J.POSHはこの寄付金を毎年頂き、ピンクリボン活動に充当させて頂いています。

さて、今年(2024年3月10日)もこの大会に参加された「ゆうこ乳腺クリニック名駅」(名古屋市中村区名駅4)の岡南裕子院長さんから「皆さん、来年のウイメンズマラソン大会にピンクリボンを付けて一緒に走り



ゆうこ乳腺クリニック名駅
院長 岡南 裕子 先生



ピンクリボンを付けたシューズで気合を入れて…

ませんか」と呼びかける『声』が届きました。J.POSHでは先生に取材させて頂き、マラソンを通じて乳がん啓発を訴える先生の熱い思いをここに紹介させて頂きます。

ピンクリボン付けて啓発に一役

地元・名古屋で開催される「ウイメンズマラソン大会」は、岡南先生にとって身近でなじみのあるイベント。昨年(2023年)も参加されましたが、昨年は知人・友達など計8人。内訳は医師4人(片岡明美先生=がん研有明病院、森下亜希子先生=桐生厚生総合病院、えみ先生、それに岡南裕子先生)、乳がんサバイバー4人(和子さん、和美さん、綾夏さん、まゆみさん)の計8人。参加者の輪が広がったのは、サバイバーの和さんが有明病院の担当医である片岡先生にウイメンズマラソンの“完走の証”ティファニーペンダントを見せて、『先生も一緒に走りませんか!』と。これが「ピンクリボンを付けて乳がん啓発に一役買っては!」となり、まゆみさんが作ったピンクリボンを身に付け



完走者全員にはティファニーペンダント

での走りにつながったということです。ランナーの皆さん、疾走時は周囲のランナーをよく見ており、ピンクリボンを見つけて声をかけてくれた人も少なくなかったようです。

今年(2024年)は今回初マラソンのともみ先生と医学生2人(今春研修医に)、サブ4の放射線技師を含む11人が完走(和美さんは応援)。今年も全員が無事にティファニーをもらうことに成功しました。マラソンに対する思いは皆さんそれぞれです。片岡先生は「ずーっとマラソンに出たかった」そうで、昨年の初参加でマラソン人生スタート。サバイバーの皆さんは「片岡先生が出るのなら私もぜひ」と参加されました。



左から、えみ先生、岡南先生、和美さん

サバイバーの中には治療中の方もおり、中でも和美さんはコロナ禍の時に知人の病氣平癒の願いを込めて6mのベランダを何周も走ってフルマラソンを完走!その様子がSNSで拡がり、勇気をもらえた方も大勢いました。マラソン当日、会場にはファンも詰め掛けました。

マラソンを走っていると沿道の声援をたくさん頂き、自分の人生までも応援してもらっているような気分になります。走っている仲間がいると辛いのは自分だけではない、自分の足でゴールしよう!と前向きな気持ちになります。そしてランナーには惜しみなく拍手と声援を送りたくなります。マラソンの魅力は語りつくせませんね!

シューズ等にピンクリボン付け 啓発効果実感

今回100円ショップで買ったピンクのリボンを加工してピンクリボンに作り上げた、その数300個。スタート前の会場で一般参加者の皆さんに配布。



配布する手作りピンクリボンを制作

皆さんが積極的にランニングウェアやシューズにピンクリボンを付けて走って頂いた様子を見て、乳がん啓発効果の大きさを実感することができました。運動は肥満を防止し乳がんのリスクを下げます。ピンクリボンは乳がん検診の啓発シンボル。一人でも多くの方に検診を受けて頂きたい。この一石二鳥なイベントに皆さんも参加しませんか!来年のこの大会、朝7時に「バンテリンドームナゴヤ」の球場前のドラゴンズカラーのファミリーマート前で待ってます。



手作りリボンを参加者に配布

ピンクリボン温泉ネットワーク

温泉パートナーのご案内

私たち日本人にとって、温泉は心身ともに癒しの場です。多くの乳がん経験者の方々は、乳がんで手術をする前と同じように家族や友人と温泉に入りたいとの想いをもっておられます。しかしながら、手術の傷あとが気になり、温泉に行くことから遠のいてしまっている方が沢山おられるのも事実です。掲載の施設はピンクリボン温泉ネットワークのパートナーとして「乳がんの手術を受けて、温泉には行きづらくなったと感じておられる方々にも温泉を楽しんでいただける環境作り」に取り組んで頂いております。※各施設の掲載は地域順です。※ピンクリボン温泉ネットワークについてとその他の温泉パートナーはJ.POSHのホームページをご覧ください。(https://www.j-posh.com)
 ※規約を変更し令和2年3月より天然温泉に限らず大浴場や貸切風呂の有る施設にも広げました。

北海道	温根湯温泉 美白の湯宿 大江本家
	源泉かけながしの宿 旅館 塩別つるつる温泉
	旭岳温泉 ラビスタ大雪山
	旭岳温泉 旭岳万世閣ホテルディアバレー
	旭岳温泉 旭岳万世閣ホテルベアモンテ
	旭岳温泉 大雪山白樺荘
	旭岳温泉 湯元 湧駒荘
	天人峡温泉 御やどしきしま荘
	浅虫温泉 南部屋・海扇閣
	岩手県鷹宿温泉 ホテル加賀助
青森	新鉛温泉 結びの宿 愛隣館
	座敷わらし伝説の宿 緑風荘
秋田	からまつ山荘 東兵衛温泉
	かみのやま温泉 お部屋食と温泉貸切風呂 くつろぎの宿 有馬館
山形	月山志津温泉 変若水の湯つたや
	福島県福島市土湯温泉 自家源泉の宿 ニュー扇屋
福島	那須黒磯温泉 かんすい苑 覚楽
	板室温泉 あったか〜い宿 勝風館
	板室温泉 Onsen Ryokan 山喜
	板室温泉 大黒屋
	板室温泉 加登屋旅館
	板室温泉 湯宿きくや

栃木	板室温泉 奥那須・大正村 幸乃湯温泉
	塩原温泉 彩つむぎ
	塩原温泉郷 湯守 田中屋
	塩原温泉 やまの宿 下藤屋
	益子温泉 益子館 里山リゾートホテル
	丸沼高原 座禅温泉
群馬	老神温泉 伊東園ホテル尾瀬老神 山楽荘
	老神温泉 ホテル山口屋
	老神温泉 旅館 石亭
	老神温泉 東明館
	老神温泉 穴原湯 東秀館
	老神温泉 上田屋旅館
	老神温泉 ホテル楽善荘
	老神温泉 金龍園
	老神温泉 吟松亭 あわしま
	老神温泉 ホテル 伍楼閣
	伊香保温泉 如心の里 ひびき野
	伊香保温泉 ホテル松本楼
	伊香保温泉 温泉宿 塚越屋七兵衛
	伊香保温泉 塚越屋七兵衛 別館 香雲館
伊香保温泉 市川別館 晴観荘	
伊香保温泉 山陽ホテル	

群馬	伊香保温泉 お宿 玉樹
	四季の湯温泉 へリテージリゾート
	秩父七湯《御代の湯》 新木鉱泉
埼玉	南房総白浜 季粋の宿 紋屋
	亀山温泉ホテル
千葉	東京・湯河原温泉 万葉の湯
	仙石原 ススキの原一の湯【本館/別館】
東京	仙石原 品の木一の湯【本棟/別邸】
	仙石高原 大箱根一の湯
	塔ノ沢 一の湯新館
	塔ノ沢 一の湯本館
	箱根湯本温泉 箱根路開雲
	強羅花扇
	強羅花扇 円かの杜
	新潟県瀬波温泉 大観荘せなみの湯
	ホテル小柳
	牧湯の里 深山荘
新潟	うみてらす名立
	ゑしんの里 やすらぎ荘
	マリンホテル ハマナス
	北アルプス山岳リゾート 立山高原ホテル
富山	粟津温泉 あわづグランドホテル

石川	粟津温泉 湯快わんわんリゾート粟津
	山中温泉 花・彩朝楽
	北陸・加賀山代温泉 ゆのくに天祥
山梨	尾白の湯 白州・尾白の森名水公園べるが
	竜王ラドン温泉ホテル 湯一とびあ
	身延山三門前 旅館 田中屋
長野	屋神温泉 料理旅館 むらさわ
	屋神温泉 お宿 山翠
	屋神温泉 保養センター尾張あさひ苑
	屋神温泉 屋神グランドホテル 天心
	屋神温泉 癒楽の宿 清風苑
	屋神温泉 飯伊森林組合 屋神荘
	屋神温泉 ユルイの宿 恵山
	屋神温泉 日長庵 桂月
	屋神温泉 万葉茶寮 みさか
	屋神温泉 おとぎ亭 光風
	屋神温泉 懐石と炉ばたの宿 吉弥
	屋神温泉 湯多利の里 伊那華
	屋神温泉 ホテルはなや
	屋神温泉 ひるがみの森
	屋神温泉 信州公共の宿 鶴巻荘
浅間温泉 東石川旅館	
浅間温泉 菊之湯	

長野	浅間温泉 onsen hotel OMOTO
	浅間温泉 富士乃湯
	浅間温泉 香 蘭 荘
	浅間温泉 尾上の湯旅館
	ホテルタングラム
	蓼科親湯温泉
	上諏訪温泉 し ん ゆ
	上諏訪温泉 萃 sui 諏訪湖
	信州むしくらの湯 やきもち家
	下呂温泉 下呂観光ホテル
	下呂温泉 下呂観光ホテルしょうげつ
	下呂温泉 木曾屋
岐阜	飛騨高山温泉 高山グリーンホテル
	ぎふ長良川温泉ホテルパーク
	伊豆今井浜温泉 花の風
	伊豆・伊東 金目鯛の宿 ころね
静岡	姫宿 花かざし
	三河湾国定公園・三谷温泉 ホテル明山荘
三重	懐古ロマンの宿 季さら
	おごと温泉 天然源泉の宿 ことゆう
滋賀	おごと温泉 琵琶湖グランドホテル/京近江
	おごと温泉 里湯昔話 雄山荘
	おごと温泉 びわこ緑水亭

	おごと温泉 湖畔の宿 雄琴荘
	おごと温泉 湯の宿 木もれび
	おごと温泉 湯元館
	おごと温泉 暖灯館 きくのや
	おごと温泉 びわ湖花街道
	京の宿 日昇別荘
京都	伏尾温泉 不死王閣
	犬鳴山温泉 不動口館
	天見温泉 南天苑
大阪	東大阪 石切温泉 ホテルセイリュウ
	神戸みなと温泉 蓮
	有馬温泉 月光園 鴻臚館 游月山荘
兵庫	日和山温泉 ホテル金波楼
	有馬温泉 有馬グランドホテル
	神戸ポートタワーホテル なごみの湯宿
鳥取	三朝薬師の湯 万翠楼
	湯郷温泉 ゆのごう美春閣
	きくがわ温泉 サングリーン菊川
岡山	新祖谷温泉 ホテルかずら橋
	北川村温泉 ゆずの宿
	御宿はなわらび
山口	源泉かけ流しの宿 清乃屋
	稲佐山温泉 ホテルアマンディ
徳島	
高知	
福岡	
長崎	

● 日帰り温泉ネットワーク ●

専用入浴着を着用して入浴できる日帰り温泉施設をJ.POSHのホームページ内にて、ご紹介しております。右のQRコードよりアクセスして、ご覧ください。

なお、一部を除きこれらの施設様では「ピンクリボン温泉ネットワーク」に加入の施設様とは異なり、入浴着の貸出は行っておりません。ご注意ください。



日帰り温泉ネットワーク

事務局からのお知らせ

Instagramをはじめました

今年5月15日より、インスタをはじめました。J.POSHの公式キャラクター（ピンクリボンエンジェル）のpinkribbon.angelの名前で投稿しています。まだ投稿の数は少ないですが、今後は皆様のピンクリボンのイベントや乳がん関連の講演会など情報をお寄せ頂きましたら、可能な限り投稿させて頂き、多くの皆様と情報共有できれば良いと考えています。情報発信をご希望の場合は、事務局までご連絡をお願いします。



Instagram
pinkribbon.angel



NEW GOODSのお知らせ

新しい啓発グッズ「ハンドタオル(グレー)」が出来ました。男性にも使って頂きやすい色柄にしました。天然素材のキュプラと綿の混紡で吸湿性も良く、ナチュラルなやさしさが心地いいハンドタオルです。(日本製・綿65%キュプラ35% サイズ約23×23cm ¥600)
今春に発売した、可愛いと評判のジャガード織ハート柄と共によりしくお願いします。



新グッズのハンドタオル(グレー) (左)とハンドタオル(ジャガード刺繍ハート柄) (上)

ピンクリボン啓発グッズのご購入は「ピンクリボングッズパーク」へ



ピンクリボンNEWSあとがき

「女性の75%が間違ったサイズのブラジャー着用」

『女性の7割以上が間違ったブラジャーを着用している』という“調査結果”を発表したのは下着の製造・販売を手掛ける(株)ヘブンジャパン(大阪府河内長野市、松田崇社長)。2014年からJ.P.O.S.Hのオフィシャルサポーターとしてピンクリボン活動にも力を入れて頂いている同社は「オンラインとオフラインを融合した販売スタイルのビジネスモデル」を構築。ネットによる販売の他、実店舗「試着体感サロン」を東京と大阪(名古屋店 2024年3月まで)に開いており、今回の“75%”という数字の裏付けは、これまでに初めて同サロンを訪れた約3万6千人のうち『75%の人が適切でないサイズの下着を着用



していた』というものです。実店舗にはフィッティングスタッフが常駐し、来店客に適正下着をアドバイスしているということです。同社スタッフの中には乳がんを経験したサバイバーで、オンラインフィッター(メール、電話、LINE、ZOOM、チャット)として活躍している社員がいらっしゃいます。オンラインでの顧客対応の他、サロンや百貨店のイベントで接客することもあるということで、同じ乳がん経験者からのアドバイスには説得力があり、顧客も喜んでいらっしゃるということです。同社内にはピンクリボンアドバイザーの初級有資格者が4人おられます。「SNSを通じて乳がん検診の呼びかけも積極的に行っています」(同社)と。(I.T)